

XenosagaI・II - 第一話 演習 - Übung -

西暦 20XX 年
ケニヤ トウルカナ湖

ある文献を元に
発掘作業が開始された

発掘された紋章に
銀色のプレートを設置した時
――その事象は起きた

――四千年後――

ヴォークリンデ 

シオン：――これより起動実験を開始します。インターコネクション始めて下さい。

アレン：了解、インターコネクション開始、ダミープロトコルにて接続します。

ジョンベル：A-LINEプロトコル、帯域確保しました。

トガシ：ゲージパーティションを開放します。開放まであと 60 秒――カウントダウン始めます。57、56――

ベッセル：各モニタリング良好。

トガシ：――3、2、1、パーティション開放。KOS-MOS、素体形成に入ります。

シオン：素体形成完了、ペンフィールドマッピング開始。

ジョンベル：エンセフェロンの構築、始めます。

カロールハジィ：マッピング率 76、77――

ジョンベル：エンセフェロンの構築、完了しました。

アレン：側頭葉にノイズ発生！

シオン：状況は？

アレン：左側頭葉第 818 領域のシナプス郡に軽度の興奮状態が観られます。許容範囲内ですが――やめますか？

シオン：いいえ、続けましょう。メニュー通り、私もダイレクトアプローチします。バックアップよろしく。

アレン：了解、接続システム NATARAJA 立ち上げます。
コンピュータパスワード確認、システム NATARAJA 起動します。

エンセフェロン

シオン：おはよう、KOS-MOS。調子はどう？

KOS-MOS：おはようございます、シオン。すべて非常に順調です。

シオン：じゃ、自己紹介してくれる。

KOS-MOS：私は対グノーシス用人型掃討兵器シリアル NO. 0000000001、開発名称 KP-X――略称 KOS-MOS です。

現在は模擬戦用筐体のため、出力は定常出力の 22% が限界値となっています。

予定兵装スペックは――

シオン：はい、よくできました。もういいわ。

演 - Übung - 習

シオン：せっかく起きてもらったんだけど――今回も起動実験なの。

一連のチェックが終了したら、あなたにはまた眠ってもらうことになるわ。

KOS-MOS：そうですか。――――

シオン：――――哀しい――とか、感じる？

KOS-MOS：私の感情プログラムは、造物主である人間が使いやすいように作られています。
今回の場合、あなた――

ヴェクター第一開発局 KOS-MOS 開発計画担当主幹技師

シオン・ウヅキとの関係を円滑に保つために”哀しい”と表現する必要性があると

私のプログラムが判断した場合に限り、そのようにふるまいます。ですが現在、その必要性はないと判断します。

シオン：ふふ、そうーそうね。それは私が一番知っていることなのよね。

KOS-MOS：ご理解いただけて幸いです。

シオン：でもね、KOS-MOSーいま、私は複雑な気持ちよ。

あなたが目覚めたことは嬉しいけれどあなたがまた眠ってしまうと思うと、とても哀しいわ。

でも、あなたが次に目覚める時はーもしかしたらたくさんの血が流れる時かもしれないの。

だから、心のどこかでそんな日が来て欲しくないと思ってる。

KOS-MOS：ー

シオン：わかる？

KOS-MOS：難解な人間の思考、特に非理論的な思考は私には理解できません。

シオン：そうーいつかなあたにも、理解できる時が来るといいわね。

KOS-MOS：善処します。

シオン：それじゃあ、始めましょうか、KOS-MOS。アレンくん、前回の続きー手順 277 から始めてちょうだい。

アレン『了解、エンセフェロンの各所にターゲットドローンを設置します。

ドローンの挙動はランダムウォーク及びアンプッシュに設定。ミッション前に準備運動します？』

シオン：うん、そうするわ。聞いたわね、KOS-MOS。

KOS-MOS：了解しました。

ヴェクター開発室

ジョンベル：手順 300 までクリア。

アレン：主任、データ送受信順調です。A-LINE プロトコル、いい感じですね。

シオン『そうみたいね、反応値が数段いい感じ。』

アレン：この調子なら、近いうちにいい結果、提出できそうですね。

シオン『そう、ねー』

アレン：主任？ 問題ないようですね。ではシミュレーション続行します。

ジョンベル：副主任、ちょっと見て下さい、艦橋からの要請が来てるんですが――

アレン：まあた、データ提出の催促か？ そんなの――

――これは！？

エンセフェロン

シオン：――え？ もう一度言って、アレンくん。

アレン『要するに、合同演習をやれって艦橋が要請してきてるんです。いや、これは要請なんてもんじゃない、事実上の命令ですよ！』

バージル：民間人にしちゃ、よく理解してるじゃねえか。

シオン：エンセフェロンにいきなり！？ ――連携用のパス、提出させられてたんだったわ。

バージル：その通り、こいつは正規の手順を踏んでるんだ。抗議があったら、師団本部を通じて正式にやってくれや。

アレン『そんなの、何日かかると思ってた――』

シオン：いいのよ、アレンくん。

KOS-MOS の開発状況、軍だって知りたいはずだもの。

こういう事態もあるって、想定はしてたでしょ。

バージル：いい心がけだ。自分は A.G.W.S. 第二中隊のルイス・バージル中尉。このレアリエンは――
うちの備品だ。型番は忘れちゃったが、あんたの方が詳しいよな。

なんせ、あんたの会社の商品だもんなあ。

シオン：これから一緒に戦うのに、型番で呼ぶなんて――

あなた、部隊での愛称は？

レアリエン：暫定的にアレックスと呼ばれています。ですが、製造番号は――

シオン：アレックスって名前、嫌い？

レアリエン：いえ、そんなことはありません。

シオン：なら、暫定にしておく必要ないわ。あなたがそう呼ばれたいという意志を持ったなら――
それが――あなたの名前よ。

アレックス：私の、名前――

バージル：なにゴチャゴチャ話してるんだ、先行くぞ！ ついてこい！

シオン：バージル中尉！ A.G.W.S. とレアリエン、KOS-MOS の連動試験のはずなのに――
いいわ、別行動での連携も想定内だものね。

アレックス：はい、我々も演習開始しましょう。この先にターゲットが、用意されています。

シオン：バージル中尉！

バージル：手を休めるな、戦闘中だぞ！

シオン：ターゲットのみを狙えたはずです！

バージル：お前にはあたらなかったろう！ 備品が傷ついたくらいでゴタゴタぬかすな！

シオン：備品？ ――まだそんなことを！

シオン：もしかしてこのガレキ この粉碎プラグインなら壊せるかも――

KOS-MOS：シオン、警告します。新たなターゲットが接近中です。

――観測結果より、G型と予測します。

シオン：G型―グノーシス！？

ヴェクター開発室

アレン：G型ターゲットドローンだって！ そんなプログラム用意した覚えはないぞ！

KOS-MOS『これより、対グノーシス戦闘モードへと移行します。』

アレン：おい、KOS-MOS！ 主任、聞こえてますか！ 主任！

――くそ、なんで応答がないんだ！

ジョンベル：すごいぞ！

アレン：どうした！？

ジョンベル：KOS-MOSのメインフレーム上に新規ネットワークが構築されています！

今までにない反応ですね。こんなスピードで成長するネットは見たことがない！

見て下さいよ、副主任！

アレン：感心してる場合じゃないだろう！

エンセフェロン

シオン：アレンくん、いったいどうなって――応答がない！

バージル：まだ演習は続いているんだろう！ 敵は倒しゃいいんだよ！

ちいっ、D.S.S.S.の調子が悪いのか！？ 当たらねえぞ！

シオン：――KOS-MOS、イレギュラーだけど、いい機会かもしれない。

対グノーシス戦闘、使用火器は市街地戦闘用に限定！ いけるわね、KOS-MOS？

KOS-MOS：問題ありません、シオン。

シオン：ヒルベルトエフェクト展開！

【 戦闘 VS ゴブリン 】

ヴェクター開発室

ジョンベル：この反応は！

アレン：ヒルベルトエフェクト！？

主任、そんなメニューはなかったはずですよ！

いわんこっちゃん、状況は！

ベッセル：エンセフェロンに異常！ ――と、こりゃまずい！ いつ崩壊してもおかしくない状況です！

アレン：主任、そこは危険です！ ――くそっ、割り込めないのか！

エンセフェロン

バージル：なんだこりゃあ！

シオン：おかしいわ！

まさか、外部からのハッキング――

バージル：アホか！ 軍用の演習システムだぞ！

KOS-MOS：敵、有効な損傷を認めず。フル戦闘モードで対処します。

シオン：！ KOS-MOS、こんな閉塞空間でそれを！？

ヴェクター開発室

ベッセル：副主任、辺縁系に神経インパルス発生。キンドリングです！

アレン：もう限界だ、プログラム強制停止！ 主任を引き戻せ！

ベッセル：了解、プログラム強制停止します。停止信号拒絶――

ウヅキ主任から上位割り込みかけられていて、こちらからでは制御できません！

アレン：なんだって！？

ジョンベル：エンセフェロンが崩壊します！　――あと 30 秒！！

アレン：くそっ、予備のダイブモジュール使うぞ！

エンセフェロン

バージル：なんなんだ、これはよおっ！

シオン：KOS-MOS、応えて！　戦闘を停止しなさい！　KOS-MOS！

！？

アレン：主任！

シオン：アレンくん！？　なんでここに――

アレン：説明してるヒマはありません、ダイブアウトします！

――中尉も急いでください！

バージル：くそっ、なんなんだよっ！

ヴェクター開発室

アレン：主任はっ！？

シオン：――――ふう――――

アレン：主任、大丈夫――ですか？

シオン：うん、ありがとう、アレンくん。

アレン：こういうの、もうこれっきりにしてくださいよお。生きた心地しませんでした――

シオン：もう、いきなり G 型ドローンなんかにシフトするからでしょ――

アレン：え、あれ主任がやったんじゃ？

上位割り込みまでかけて、こっちの制御を排除したのは――

シオン：――――

アレン：あの、主任――？

シオン：――――

どうも話が噛みあわないのよね。

まさか、本当に――？

アレン：え、なんです？

シオン：ううん、なんでもないの。さあ、急いでデータの解析をはじめましょう。

今日が締切、そろそろ艦橋から催促が来ころだわ。

星団連邦軍第一一七海兵師団旗艦 巡洋艦ヴォークリンデ

オペレーター『――全艦に通達。本艦は3分後にゲートアウトします。
非常時に備え、各人、所定のエリアに戻って下さい。
繰り返します、本艦は――』

アレン：もうゲートアウトか――仕方ありませんね、艦隊の一角に開発室を間借りしている状態ですから。
本社からの指示以上に、艦橋からの催促には逆らいがたいですよ。

ベッセル：ウヅキ主任、これ提出するデータです。他には――

シオン：ありがとう、あとは今日のシミュレーション分ね。

ジョンベル：あの、よろしいですか――？

シオン：ん、なに？

ジョンベル：新人が差し出がましいと思うのですが――
よろしいのですか、いつまでもシミュレートデータだけで？
軍はKOS-MOSの実動データを求めています。

シオン：それ言われると痛いんだけどね。

でも、できることならKOS-MOS[この子]には、いつまでも素敵な夢を見ていて欲しいんだ。

ジョンベル：自分は早く、KOS-MOSが稼動している姿を見たいです。
せめてフェーズ3までいかがでしょう？ 現状で十分いけるはずです。

アレン：模擬戦筐体でフェーズ3もないだろう。わざわざお姫様を起こす必要はないよ。
――主任。これ、二局からのKOS-MOS装備要項です。
艦橋の連中を納得させる一助にはなるでしょう。

シオン：サンキュー、気が利くね。アレンくん。

アレン：主任のサポートこそ、副主任の本業ですから。
後処理もこっちでやっておきます。
提出する分がまとまるまで、部屋で休まれてはいかがですか？

シオン： そうさせてもらおうかな。

じゃ、お先に失礼させてもらうね。

アレン： おっ疲れさまでしたぁ～～～

————— ーさあ、仕事仕事っと！

トガシ： 世話女房ぶりも板に付いてきたじゃないですか、副主任。

アレン： な、なに、にやついてんだよ、トガシ！ 大体なんだ、その世話女房ってのは！ さっさと残りのデータまとめろって！！

トガシ： やってますって！ そう照れなくてもいいのにー

アレン： なんか言ったか！

トガシ： なにも言ってませーん、空耳で一す。

アレン： ————たく。

ん、どした？ まだ納得いかないか。

ジョンベル： いえ、決してそういう訳ではないのですが————

アレン： 気持ちはわからなくはないけど、さっきの状況だって見たろう。主任だって慎重にもなるさ。

それに————

そうか、君は先月転属になったばかりだったな。なら知らなくても仕方ないか。

ジョンベル： 二年前の”事故”のことですよ。噂ぐらいは聞いてます。細かい事情は知りませんが。

アレン： だろうな————

（知ってたら、言えるはずがないさ）

ジョンベル： あのー

アレン： いや、いいんだ。まずは目の前の仕事から片づけようじゃないか。さ、後処理急いでくれ！

シオン： （アレンくんもああ言ってくれたことだし部屋に戻って休もうかなー）

ー

シオン： 通信？ ーそれも双方向同時？

兄さん！

ジン『久しぶりですね、シオン。』

シオン： ーだからぁ、今の仕事が一段落つくまで無理だって！ この前も言ったでしょ。

ジン『お前ねえ、そう言い続けて、もう二年も顔見せてないじゃないですか。

せめて両親の法事の時ぐらいは帰省しなさい。それが子の努めってものでしょう。』

シオン：法事って、ちょっと兄さん！ そんな超古代の風習なんて復活させないでよ。

あ、さてはまた何か変な本読んだわね。もう、書痴もホドホドにしとかなないと、婚期逃しても知らないからね！

ジン『余計なお世話です。人様の主義には干渉しない。――何度言わせるんですか。』

シオン：なにが主義よ。兄さんの場合は単なる趣味じゃない。

いやよ、私――将来、歳にとって身寄りがなくなった偏屈兄貴を引き取るなんて。

ジン『なにを言ってるんですか、失礼な。そんなことより、いいですね。今年こそは必ず帰ってくるんですよ。

でないと――』

シオン：はいはい、そのうち休暇が取れたらね。じゃね、切るわよ。

ジン『あ、こ――こら！ お前はまたそうやって適当にはぐらかそうとして　もしもし、もしも――――』

シオン：もう――少しは私の気持ちも察してよ。

――――